

平成 24 年度 海外臨床薬学研修報告書
「USC 研修に参加して」

研修期間：平成 24 年 8 月 19 日～9 月 1 日

研修先：南カリフォルニア大学薬学部

薬学部薬学科 5 年

080973149

根崎 江梨

平成 24 年 8 月 19 日～9 月 1 日、南カリフォルニア大学薬学部における海外臨床薬学研修に、名城大学 11 名、名古屋市立大学 6 名、富山大学 6 名とともに参加した。

私が本研修へ参加するにあたって掲げた目標は、日本とアメリカの医療の違いを学び、今後日本の薬剤師がどう在るべきなのか考察することである。アメリカの医療が日本よりも進んでいることは、大学の講義等を通して以前から耳にしていた。アメリカにおける臨床現場での薬剤師業務や、薬剤師という職業の位置づけに非常に興味があり、実務実習に行かせていただいている今、日本とアメリカの医療を比較する絶好の機会だと考えた。

今回のプログラムは、主に1週目に大学での講義を受け、2週目に施設見学を行うというものだった。

講義は、中枢神経系に関する薬物治療学や、患者へのカウンセリング方法、不眠症の講義を受講した。実際に講義を受けて印象に残ったことは、日本の学生は常に受け身の姿勢であるように思うが、アメリカでは教師が歩き回り学生に意見を求め、学生に話をさせながら授業を進めていくというスタイルだった。学生を講義に参加させながら一緒に授業を進めていくことで能動的な授業が確立されていた。本研修に参加する前に聞いていた、アメリカの学生はモチベーションが高く授業に対する取り組み方も優れている、ということの要因の一つがこの授業スタイルであると感じた。

ホワイトコートセレモニーを見学した。ホワイトコートセレモニーとは、実務実習に行く薬学生に白衣を手渡す式典のことで、一般の方でも観ることができ、たくさんの観客がいた。学生たち一人一人に教授より白衣を贈呈されていた。学生たちの表情はとても誇らしげで、これから医療現場に出る薬学生としての自覚をもっていることが感じられた。名城大学にはホワイトコートセレモニーはない。私たちもこの式を行うことができれば、これから医療現場に出ることへの自覚がよりいっそう強くなり、モチベーション向上にも繋がると思った。

施設見学では、El Monte Pharmacy、Norris cancer center、USC Plaza Pharmacy を訪問した。アメリカの医療機関にはテクニシャンが存在することが、日本との大きな違いだと思う。テクニシャンは調剤を専門に行う。薬剤師の人件費は高いため、テクニシャンの存在により、より少人数の薬剤師でまかなうことができる。さらにアメリカの薬剤師は鑑査や服薬指導、疑義照会など、より専門的な業務を行うことができる。テクニシャンの他にも、PhamD といういわゆるインターンの薬剤師も働いている。彼らは最終鑑査以外の全ての業務を行える。また、アメリカの薬学生は一年次からテクニシャンレベルの資格をもらえ、薬局でのアルバイトが実習単位として認められるそう。これにより臨床現場で学ぶ時間が多くなり、臨床での知識と経験を得ることができる、良い制度だと思った。

Community pharmacy である El Monte Pharmacy では、薬剤をシートに分包するのではなく、ボトルにつめ調剤しているのが印象的だった。ボトルに薬名や用法用量、作用、副作用を記載し、薬剤情報提供文書にあたるものは発行していないと教えていただいた。また、ここではリフィル処方を行っている。リフィル処方とは、処方箋を繰り返し利用でき、毎回医師に診てもらわなくとも薬剤

師により薬剤を提供できる制度である。El Monte Pharmacy では一年に二回まで、慢性疾患のみ対象としてリフィル処方を受け付けている。リフィル処方は日本との大きな違いであり、アメリカの薬剤師の職能の高さがうかがえる。

Norris cancer center は、がん患者の専門病院であり化学療法を行う。抗がん剤の調製はケモセラピーテクニシャンが行い、2人の薬剤師と看護師がチェックを行ったのちに投与される。抗がん剤調製のための無菌室を見学したが、設備や衛生面では日本のほうが優れていると思った。

USC Plaza Pharmacy は大学病院の門前薬局である。ここでは薬剤師のみの診察室があったのが印象的だった。大学病院の外来診察が週に3日しか行われていないため、プロトコールに基づき薬剤師が症状を判断し薬を調剤することができる。さらには、薬剤師が予防接種を行うことができる。これは日本との大きな相違点である。アメリカの薬剤師はやはり日本と業務が異なり、その分多くの知識や高いコミュニケーション能力が必要であるが、やりがいは大きいであろう。アメリカではそもそも入学する段階で学生が高い意識をもっている。こうした意識の高さも薬剤師の地位を向上させるのだと思う。

今回の研修では、日本とアメリカの違いを知ること、をテーマにして臨んだ。医療はアメリカのほうが進んでいることばかりだと思っていたが、実際に研修を通して、アメリカの医療の優れている点を発見すると同時に、日本の医療の優れている点も発見することができた。先ほど述べた無菌室の設備・衛生もそうだが、保険の面でも日本が優れているだろう。アメリカは日本と違い、国民皆保険制度が成り立っていない。貧しい人々は高騰する保険料を払えず、保険に加入できないため簡単に病院に出向くことができない。保険会社によっても違いがあり、収入によって加入できる保険会社が異なる。アメリカでは医療格差が生まれているのである。

今回研修に参加したことで、私は日本の薬剤師が持つ可能性に気付くことができた。日本の薬剤師はアメリカの真似をするのではなく、これから新たな地位を築いていけるのだと思う。また、アメリカの薬剤師もはじめから現在の高い地位を確立していたわけではない。これまでに多くの努力をし、薬剤師の必要性を訴えてきた成果であり、地位が向上した後も努力し続けているからこそ現在のアメリカの薬剤師がある。日本も私たち薬剤師が社会に認められるような知識や技能を身につけ努力していくことが、これからの薬剤師の職能の拡大や地位の向上につながっていくのではないかと思った。そのために今後も勉学に励み、自分の目指す薬剤師像に向かって一步一步努力していこうと思った。